

ちゅうごくライフ

病院の出前講座 広がる

病院の「出前講座」が広がっている。そば薬の出前のように、病院が健康講座の「メニューリスト」を用意し、住民団体などの「注文」に応じて、病院のスタッフが無償で出向く活動だ。現場を訪ねた。



説明工夫 医療力育つ

県立広島病院

県立広島病院（広島市南区）は2019年に「出前講座」を始めた。これから各地域に広がっていく。これまでの出前回数は140回を数える。5年前には内容をまとめた本も出した。インターネットが使われるようになり、受診する人が抱った情報を持っていくことが増えたのを案じた若い乳腺外科医が、正しい乳がんの知識を広めたいと始めたのがきっかけだったという。

県部にある中核病院の「出前」先は、住民団体や老人会だけでなく、学校、企業など幅広い。自治体の保健師や民生委員、県議会議員の団体もある。「地域

のオピニオンリーダーに連解してもらって、彼らから各地域に広がっていく。効果がある」と、教本發行副院長は話す。多忙な病院スタッフたちが薬性をやりくりしながら働いている秘密は何か。参加者の反応が直感を感じる。

られ、スタッフのやりがいにつながっているという。だが、それだけでは話すと分かってもらえるか。退屈せずに聞いてもらえるか。医師が、考案工夫し学べるいい機会なのです。「住民を教え、医療者と学ぶ。「出前」が、地域の医療力を育ててい